

神奈川県イノシシ管理計画に関する取組

平成 30 年 10 月 24 日に策定した管理計画に基づき、国の指定管理鳥獣捕獲等事業交付金を活用して、イノシシの生息分布拡大を防止するため、ICTを用いた試行的な捕獲等に取り組んだ。

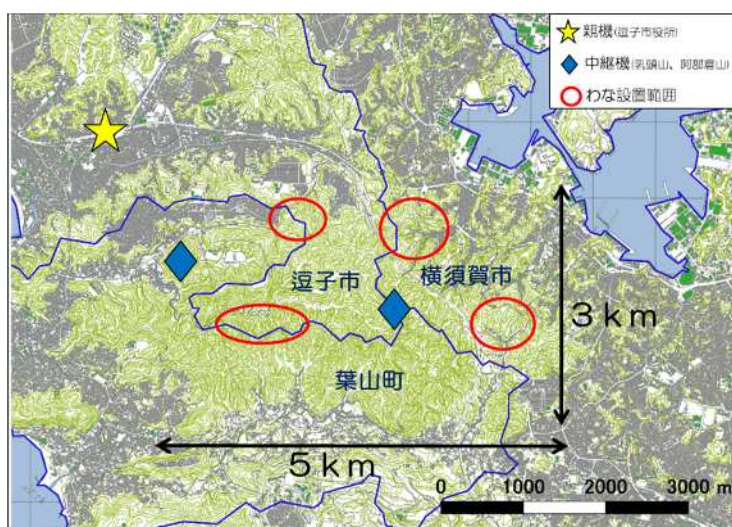
ICT 技術を活用したイノシシ捕獲

1 目的

多数のわなを一括で遠隔監視する機器、「オリワナ通信」を試行運用し、わなの見回りの負担軽減の効果や情報の信頼性、機器の利便性を検証する。

2 実施場所

神奈川県横須賀市内、逗子市内及び葉山町内



3 オリワナ通信とは

子機から送られるわなの作動状況を、中継機を介して親機に送信。親機から携帯電話回線を使いクラウド上に情報を上げることで、わなの稼働状況を遠隔監視できる。

<特徴>

- ・ わなの情報をクラウド上で一元管理でき、不特定多数で共有可能
- ・ LPWA 技術を使い、携帯圏外に設置したわなでも使用可能
- ・ 高い電波出力と中継機能で、従来製品より広範囲をカバーできる。
- ・ 通信料がかかるのは親機のみのため、低コストで運用可能



(株) フォレストシーのパフレットより

4 実施内容

10 か所に設置したくくりわなにオリワナ通信の子機を設置し、クラウド上で作動状況を毎日確認。作動があった場合は現地確認。作動がない場合も1週間に1回定期見回りを行い、わなの状況をチェック。50日間運用し、負担軽減の効果、情報の信頼性、機器の利便性を考察する。

5 結果

運用期間50日間で行った見回り回数は16回。うち定期見回りは8回、作動時の見回りは8回だった。作動時の見回りでは、うち1回がイノシシの捕獲、4回がタヌキなどの錯誤捕獲、3回が誤作動だった。誤作動は機器のうち1台に初期不良があったため、機器交換後には誤作動は起きなかった。

6 考察（成果及び今後の予定）

- ・ICT技術を活用したわなの遠隔監視機器オリワナ通信を使用することで、わなの見回り回数を減らせ、負担を軽減できた。
- ・初期不良の1台を交換した後には誤作動は1度も無く、わなの作動状況を問題なく把握でき、情報の信頼性が確認された。
- ・機器の利便性については、使い方を理解すれば簡単に操作や情報共有ができ、見回り負担の軽減や経費の節減にもつながることが分かった。一方で、軽量化やGPS機能の向上など今後改良が望まれる点があったほか、機器の配置計画をよく検討する必要性、総務省への手続きが必要であることなど、注意する点もあった。
- ・ICT技術を用いたわなの監視機器は、製品ごとに様々な特徴があり、使い方に合った製品を選定することが重要である。

【子機】



設置例



【捕獲状況】

捕獲日：2月9日（土）

性別：オス

体重：34.7kg

頭長：27cm

頭胴長：110cm

体高：60cm

